

平成29年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人純正福祉会 青葉はるまち保育所

評価項目の達成・取組状況・これから改善したいこと

評価項目	取組状況
I 保育の計画性	園の教育理念や教育方針を理解した上で、子ども一人ひとりに合った個人指導計画や学年別年間計画・月週間計画を立て日々の保育に行かせた。特に子どもの発達や生活を見通した環境を工夫し取り組み評価反省から次の課題を持ち成長発達へと繋げている。
II 保育の在り方 幼児への対応	子どもの個性や特性・家庭環境などを理解・把握した上でその子どもを受け止めながら、成長発達に繋がるような個人的接し方を重視した。情緒の安定をはかり大人との愛着関係から子ども同士の仲間関係も築き、共同活動や個人活動への意欲へと繋がり達成感や満足感を感じられるよう援助している。
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	保育の意義や大人の連携を十分理解し、子どもの生活保育が円滑に行われるように協力し保育を深めるようにした。乳幼児やその保護者たちに直接関わる専門家としての良識やマナーを念頭に、日々の保育や保護者との対応に努めた。更に、保護者との対応に必要な傾聴する姿勢を重視して安心出来る雰囲気作りに留意した。
IV 保護者への対応・守秘義務	園の送迎時に子ども様子を伝え、子育てや就労で忙しくしている保護者の日々の生活を支えながら気持ちに共感・支援し配慮している。家庭での生活背景や日課を理解し子どもにとって適切な生活が出来るように細かな配慮を持ち信頼関係を深めている。
V 地域の自然や社会とのかかわり	地域の公園や子ども広場では、戸外遊びや地域の秋祭りに参加し3・4・5歳児が踊りを踊ったり5歳児がお店を出して店の仕組みや金銭のやり取りなどの体験も出来た。地域のボランティアの方々により、月1回の絵本の読み聞かせやさつま芋の芋堀体験・年末の門松作りなど様々な体験から交流の機会が持てた。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	自ら保育の質の向上のために、園内研修や各クラスでの自主研修・園外での研修を通して専門性のスキルアップを心掛けた。また、研修での学びを職員皆で共通認識出来るように朝礼で報告したり、内容によっては各クラスリーダーに報告し自分のクラスの課題に合わせて具体的に取り入れていった。更に、専門書を参考に成長発達を調べたりや遊び方のロールプレイなどの勉強会を行い保育に対して意識を高めた。
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	応答的保育を基本にして実践し、子ども達の心のよりどころとして子どもの要求や欲求を十分理解し適切に対応するように努めた。3歳未満児では担当制保育を取り入れ、一人ひとりの子どもの事を知り個人記録から発達課題を生活形成計画に基づき見通しを持ち保育している。また、朝の受け入れ時の視診・触診や家庭との連携により健康管理や安全管理に努めた。
VIII 地域における子育て支援	月2~3回の地域公開保育や地域の公民館での親子ひろばに参加し、保育園に通っていない親子とも触れ合い、遊具作り・絵本紹介・わらべうたや親子体操など子育て支援を行った。また、課題がある親子に気付き、気軽に相談出来たり地域の専門機関を紹介するなど子育て支援を行っている。